

「下作延K」2004年竣工

都留 理子
Rico Turu

建築家 都留理子建築設計スタジオ代表
昭和女子大学 非常勤講師

- 1971年 福岡県生まれ
- 1990年 修猷館高等学校卒業
- 1994年 九州大学工学部建築学科卒業
- 1998年 都留理子建築設計スタジオ設立
- 2015年 個人住宅「House M」がグッドデザイン賞を受賞(ミサワホーム株式会社との共同受賞)

「下作延K」は、間口10mの座れる大きな出窓を持ち、豊かな環境に開かれた住宅。木々の葉や光が室内のどこにいても感じられ、親密な公園のような空間である。住むことの喜び、そこで過ごすことの心地よさを最大化する方法を模索し、建築として実現させることに日々力を注いでいる。



題字・箱島信一書
発行 修猷館同窓会
東京支部事務局
〒185-0034
東京都国分寺市光町 2-14-85
(有)パルティール内
FAX 042-573-5060
東京修猷会ホームページアドレス
http://www.shuyu.gr.jp

東京に思いを馳せる



東京修猷会副会長
清田 瞭
(昭和39年卒)

新年明けましておめでとうございます。館友の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えされたことと思います。

昨年、日本人のメダルラッシュに沸いたりオランダやイロオリンピックが行われました。私も毎晩、地球の裏側の日本選手の活躍を手に汗握って見守っておりました。結果的には成功裏に終わったリオ・オリンピックですが、開会直前までは、ブラジル経済の低迷による財政難や準備の遅れ、治安・政情不安など、ぎりぎりまで開催が危ぶまれていました。そして、2020年に向けていよいよ本格的なスタートを切った日本も、御多分に漏れずさつそく様々な問題が起こっています。

こうした問題を取り切り、2020年に向けて、私たちにできることは何でしょうか。日本経済を新たな成長軌道にのせ、私たち国民が明るい未来を描ける社会を実現する、政府の標語のようですが、私は、企業経営者として、こうした社会の実現の一助となるような取り組みをしたいと考えています。

私は1969年に大和証券に入社し、45年以上にわたって証券界に身を置いてきました。最初の20年間はバブル景気もあり日本経済は順調な成長を遂げてきたわけですが、その後の25年は、失われた25年とも言われるとおり、景気低迷の時代が長く続きました。アジア通貨危機やリーマンショックなど幾多の困難に遭遇し、私も大和証券の経営者として苦労を重ねました。そんな冬の時代に終止符を打ち、日本経済に新たな息吹を吹き込んだのがアベノミクスです。

安倍政権は、日本経済の復活には企業の稼ぐ力が重要であると指摘し、それを引き出すためにいわゆる六重苦の解消に取り組みしました。日銀によって十分に緩和された金融環境下で、岩盤規制と言われたエネルギーや農業、医療分野での規制緩和をはじめ、PPPへの署名、日本企業の重石とされてきた法人税率の引下げなどを次々と手掛けた結果、企業収益は売上高利益率ベースでみて過去

最高水準に達しています。この利益をどうやって次なる成長につなげていくか、これが今年の私の課題であり、また多くの日本企業の課題なのではないかと思っ

私は、現在は証券会社を離れ、日本取引所グループで資本市場の運営者として企業の成長資金の円滑な流通を支える仕事をしています。一方で、コーポレートガバナンスコードの導入・普及などを通じて、上場企業の経営者の方々に投資家を意識した経営を心掛けていただけるよう働きかけるとともに、各企業におけるガバナンス体制の変化や成長に向けた取組みを国内外の投資家に対して紹介する活動も行っています。

こうした活動を通じて今強く感じていることは、25年ぶりに海外の投資家が日本市場を見直しているということです。独立社外取締役による株主目線での経営監視が、企業経営者の資本効率を意識した経営に繋がりは始めており、投資家はそうした日本企業の変化に高い期待と関心を持っていきます。今彼らが注目しているのは、いかに日本企業が守りの経営から攻めの経営に転換できるかです。

私は1964年、東京オリンピックの年に修猷館高校を卒業し、上京しました。東京オリンピックでは、新幹線や東京モノレール、高速道路といったインフラ整備が良く知られていますが、国産時計SEIKOの技術力を世界に知らしめたのも、今や世界中で使われている案内表示のピクトグラムのアイデアが生まれたのも東京オリンピックがきっかけでした。

2020年、日本が世界に向けてどのようなイノベーションを発信できるか、やはり日本はクリエイティブで面白い国だと、世界の人々から認められる社会を実現できるか、それは我々民間企業の力にかかっていると考えています。そして、イノベーションが実現できたとき、それはきっと私たち国民にとっても、日本企業に投資をする投資家にとっても、将来への明るい兆しとなるに違いなく信じています。各界でリーダーシップを取る館友の皆様には、是非そういった意識をもってこの1年を過ごしていただければと思います。今回の会報のテーマは「応援」ということですが、館友の皆さんがそれぞれの立場でがんばり、励まし合う、それが日本経済の底上げにつながるのではないのでしょうか。

今年には西暦、商売繁盛の年です。第4次産業革命元年とすべく、新たなビジネスに挑戦し日本の更なる成長の契機とするともに、今後の商売繁盛を願う、そんな年にしたいと思っています。

東京修猷会2017年活動スケジュール

二木会は6、8月を除く毎月第二土曜日開催

- 1月 元旦 会報発行 (全会員に送付)
- 2月 12日(木) 二木会 於：学士会館
- 3月 9日(木) 二木会 於：学士会館
- 4月 23日(木) 春期常任幹事会
- 5月 11日(木) 二木会 於：学士会館
- 6月 9日(金) 総会 テーマ「つむぐ修猷愛」 於：ホテルハイアットリージェンシー東京クリスタルルーム 午後6時より (幹事学年は平成30年卒)
- 7月 13日(木) 二木会 於：学士会館
- 9月 9日(土) サロン・ド・修猷 於：学士会館
- 10月 12日(木) 二木会 於：学士会館
- 11月 26日(木) 秋期常任幹事会 於：学士会館
- 12月 14日(木) 二木会忘年会 於：未定

二木会では、毎回各界で活躍の卒業生から貴重なお話をお聞きします。皆様、奮ってご参加下さい。

平成28年度東京修猷会総会

「フレイ！奮え！修猷!!」

実行委員長 小野 顕 (平成2年卒 卒猷会)



文化の一つと考える「応援」を基本コンセプトに、「フレイ！奮え！修猷!!」をテーマとさせていただきます。総会第一部では、大須賀会長、修猷館同窓会川崎副会長、修猷館高校江口館長からの各ご挨拶を頂戴し、また松尾幹事長から前年度の事業報告が行われました。

平成28年度東京修猷会総会は、同年6月10日(金)、新会場「ホテルハイアットリージェンシー東京」にて、584名の館友の皆様をお迎えして開催されました。本総会は、私共が世代を超えて引き継がれた修猷生の懇親会は伊藤副会長のご挨拶



納清秀先生による講演

完売御礼！記念品企画

物販担当 和田謙太郎 (平成2年卒 卒猷会)

「毎年、物販を楽しみにされている方が多数いる」と諸先輩からの温かいプレッシャーの中、物販チームは静かに立ち上がりました。卒業間もない学生から昭和卒業の大先輩まで、各世代の出席者に喜んでいただける商品企画とは。この問いが高い壁となり、商品選定に長い時間を要しましたが、最終的には、身につける、食べる、楽しめる、をコンセプトに、泣く泣く商品を選び込み、過去好評の声が多い「タールハンカチ、名刺入れ」、同期



思いをこめた特製グッズたち

ラー服を着用したコスプレ(?)販売等々。ご出席者の「六光星」への思いの強さにも助けられ、ほぼ全ての商品で「完売御礼」に至ることができました。皆さまに、多数の記念品をご購入いただきましたこと、この場をお借りして、改めて厚く御礼を申し上げます。



挨拶する筆者

コンが実演されました。本会報の特集記事でのご紹介を是非ともご覧ください。

最後に、平成28年卒業生と、開催を控えた近畿・福岡・東京の各同窓会総会の幹事学年からご挨拶をいただき、館歌斉唱・エールを経て閉会となりました。

皆さまに「元氣」をお持ち帰りいただきたい、との私共幹事学年の想いが、少しでも伝わっておりますれば大変幸いです。改めて、この場を借りて皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、本年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

新たな会場での開催

会場担当 上木一徹 (平成2年卒 卒猷会)

今回の総会準備は、従前会場のホテルオークラの改装に伴い、会場選びから始めました。会場は格式、利便性等検討の結果、小田急系列のホテルハイアットリージェンシー東京に決まりましたが、大きな課題が2つありました。



毎年好評の福岡の地酒コーナー

①会場変更を多くの館友に分かりやすく告知すること。②過去の総会のイメージをホテル側に伝え、スムーズに総会を運営すること。

会場の告知は、事前に執行部や常任幹事等の先輩方からアドバイスをいただき、卒猷会実行委員の協力の下、都度あらゆる方法で案内を試みました。総会当日は福岡から来てくれた卒猷会の同期達がホテル周辺から会場まで誘導係として立ってくれました。お蔭様で大きな混乱もなく会場にお越しいただけたかなと思っています。

ホテル側との折衝も手探りで始まり、何度もホテルを訪問しましたが、宴会副支配人の薄尾様が本当に親切に対応してくださり、一緒になって一から総会の準備を手伝っていただきました。我々が総会でやりたいこと(とんでん・応コン企画・料理等のスムーズな提供等)に出来る限り融通をきかせ、また当日もぎりぎりまで提案していただき、本当に感謝しています。

総会での三三三会

瀧口勝 (昭和33年卒 三三三会)

私は東京修猷三三三会の会長を務めております。私共は昨年目出度く喜寿を迎えました。三三三会は毎年6月と12月に開催し、6月は東京修猷会総会の日に14時から開催し会終了後有志はその場で総会に出席していましたが、毎年僅か数名でした。

あるものと認識致しました。昭和59年に東京修猷会総会の幹事学年となり、パレスホテルで盛大にやったことが懐かしく思い出されます。これを機に三三三会の強い絆が生まれ、今日の三三三会発展に至っております。

そこで数回幹事会を開き、昨年はテスト的に総会の中で三三三会をやることにしました。その結果、成果はあったようです。①出席者は12名で前後の学年ではダントツでした。

②幹事学年の計らいで円卓大テーブルを舞台正面最前列に用意して頂き、その上本来食事セルフなのに幹事学年女性から食事のサービスをして頂き感謝感激の連続でした。③総会なので世代間で縦の交流も出来、先輩・後輩との再会は良かったです。また館長先生、会長以下来賓の方々、辞をお聞きして、三三三会一同、改めて修猷館の伝統と素晴らしさを再認識することが出来て、総会出席は大いに意義



後列中央が筆者 万緑や 喜寿を寿ぐ 三三三会 盛り上がる 修猷魂 夏来る

東京修猷会2017年度総会のご案内

テーマ:「つむぐ修猷愛」 幹事学年:「讃猷会(平成3年卒)」

6.9

今年も第2金曜日

2017年6月9日(金) 18:00よりホテルハイアットリージェンシー東京 クリスタルルーム

修猷ならではのエピソードを川柳形式(五・七・五)で詠んでみませんか?

高校生活・運動会・部活・西新の街などをテーマに「修猷愛」溢れる名作をお待ちしております。投稿頂いた作品を冊子にまとめ総会当日に記念品として配布致します。また、代表作品を総会の企画コーナーで懐かしの映像とともに発表させていただきます。お一人様何口でも応募可能です!!

【応募方法】①郵送 〒279-0012 新浦安駅前郵便局留 ②Eメール h3kikaku@gmail.com ③WEB A)応募専用フォームURL https://goo.gl/forms/ij3ydHILzd3URINA3 B)東京修猷会ホームページ内、総会ご案内ページから専用応募フォームにお入り下さい。

応募締切 2017年2月28日 必着!!



右のQRコードからどうぞ!! =>

【お問合せ先】2017年度東京修猷会総会実行委員会企画担当 本井圭介 h3kikaku@gmail.com

学年企画 「修猷あるある川柳」 作品大募集!!

館友時評

クールジャパン「日本文化の海外展開を支援」

小川剛(昭和61年卒 六一会)

クールジャパン「日本文化の特色を生かした商品やサービスを海外へ」

勤務先のクールジャパン機構

は、経産省主導で設立された官民ファンドで、「メディア・コンテンツ」「食・サービス」「ファッション・ライフスタイル」といった分野で、日本文化の特色を生かした商品やサービスの海外展開・インバウンド展開する事業に対して投資や支援を行う会社です。「メディア・コンテンツ」では海外で人気の高いマンガやアニメに始まり映画・音楽・ゲーム・伝統芸能など、「食・サービス」ではラーメンなどの日本食、「ファッション・ライフスタイル」では伝統工芸やファッションなど対象分野となります。

日本のポップカルチャーの魅力を発信する事業への支援

私の担当はメディア・コンテンツ分野で、支援先のひとつは「Tokyo Otaku Mode」というベンチャー企業で、日本のマンガやアニメに始まりファッションなどポップカルチャーの魅力をニユース記事や動画で海外発信し、関連商品をインターネット経由で海外販売する会社です。運営サービスは外国語のみでFacebook上では1900万人の海外ファンがいる人気サービスで、日本でイメージされるマンガアニメの「オタク」よりも幅広く「日本好き」が集まっています。外国人の方が日本に興味を持つきっかけはマンガやアニメであることが多く、そこから日本語を勉強したり日本に旅行に来たり商品を買ったりと繋がっていきます。日本のファンになってもうさつきかけとしてもマンガやアニメは大事だと考えています。私は同社社外取締役も務めています。

フランスの世界最大級の日本文化イベント「Japan Expo」

フランスに25万人が集まる世界最大級の日本文化イベント「Japan Expo」にはTokyo Otaku Mode社にも随行し、ビジネス展開支援や商談をアレン

ジし、出展ブース内でレジに立ち手伝いました。同イベントは、マンガやアニメだけでなく、柔道など武道、着物や伝統工芸、日本食、音楽と総合的な日本文化に関する博覧会で、入場者の4

人に1人は日本のマンガやアニメのキャラクターに扮した所謂「コスプレ」の人たちで華やいだ雰囲気家族連れも多く、幅広く「日本好き」が集まるイベントでした。こういった沢山の日本好きの外国人がいる一方で、人材も歴史も厚い日本の製造業と違い、クールジャパン関連企業は海外展開がまだ未成熟で、折角のビジネス機会を逃している状況です。だからこそクールジャパン機構としても地道に底上げを支援していく必要があると考えています。

朝9時にバス2台で新宿を出発。車中ではまず参加者の自己紹介、「修猷館高校のあるある」を題材に伝言ゲーム、そして歓談。館友からご提供頂いたビールはほとんど減っていきます。

ランチ会場は、箱根のリゾートホテル「山のホテル」の別館「芦辺」。芦ノ湖を眺めつつ、ホテル名物のビーフシチューを堪能いただきます。ご参加いただいた初代サロンの創設メンバーを代表して、まさにサロンの生みの親である甲畑真知子さん(昭和44年卒)のご発声により、館友からご提供頂いた絶品の赤ワインとソフトドリンクで乾杯。10年の歴史を感じる瞬間でもありました。

親睦も深まる中、ミニコンサ

トが始まりました。司会の紹介とともに、ソプラノ歌手吉田明未さん(平成21年卒)が登場し、会場は一気に華やきました。1曲目は、オペラ「ジャンニススキ」より「わたしのお父さん」。吉田さんの豊かな声量と表現力に圧倒されました。そこへ、オ

カリナ奏者弓場さつきさん(平成22年卒)がサブライズで登場。吉田さんと弓場さんの出会いである修猷大運動会の思い出など楽しいトークの後に、お二人のコラボで童謡「赤とんぼ」が歌い上げられました。そして、最後の曲は、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」。弓場さんが2台のオカリナを持ち替えて紡ぎだす繊細な調べに、吉田さんの優しい歌声が重なるその演奏はまさに至福。中には、涙を浮かべて聴き入る館友もいらつしました。

その後は、第1回にもご登場いただいたシンガーソングライター

宇佐元恭一さん(昭和53年卒)のステージ。1曲目の「そこにあるRADIO」で、会場を一気に巻き込みます。宇佐元さんの軽妙なトークに館友はさらに盛り上がりました。続く2曲目はガラッと変わり、「海の中道」がしっかりと歌い上げられました。真つ青な芦ノ湖は、宇佐元さんの甘く切ない歌声とともに、能古島の浮かぶ博多湾となり、聴衆は皆、博多の街に思いをはせまし

た。そして、最後を飾るのは、代表曲「雨ニモマケズ」。ラストにふさわしい、心にしみる曲でした。まだまだステージを楽しんでいたいという後髪を引かれつつ、バスで小田原へ。車中では、ピ

ンゴ大会で盛り上がりました。小田原では、史跡巡り。リニエールしたての小田原城と、黒田家ゆかりの清閑亭(第3代館長黒田長成侯爵の別邸)へ。小田原を満喫した後、バスで帰途につきました。

サロン・ド・修猷、初のバスツアーは、芸術・文化を堪能しつつ、世代を超えて館友との親睦を深める「かけがえのない一日」となりました。ご参加・ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

谷口訓浩 権藤玲恵

(平成元年卒 گانガン会)

優勝は上木一徹さん(平成2

年卒)、準優勝は今林定道さん(昭和44年卒)、第3位は西岡修

さん(昭和57年卒)となり、男子

バスグロはグロス82の中山興一

さん(昭和62年卒)、女子バスグ

ロはグロス91の好スコアの磯部

悦子さん(昭和59年卒)となりま

した。また今回はチーム戦も開

催され、優勝者準優勝者を輩

出した上木さん、今林さん、上田

耕太郎さん(昭和59年卒)、本井

圭介さん(平成3年卒)のイン

第4組が栄冠に輝きました。

伊藤洋子さん(昭和35年卒)には連続37

回となる皆勤出場をいただきました。

今度も、大須賀会長、松本

さんを始め、初参加者10名、女性6名を含む

39名の皆様により、連日降り続いていた

雨も遠慮がちとなる熱戦が繰り広げられ

ました。

田原光晃

(平成2年卒 修猷会)



パリのJapan Expo会場のコスプレイヤー達

修猷のネットワーク

私は日本生命↓IT会社↓経営コンサル↓起業して社長↓伊藤忠商事のベンチャーキャピタルとソフトドリンクで乾杯。10年の歴史を感じる瞬間でもありました。

クールジャパン「日本文化の特色を生かした商品やサービスを海外へ」

勤務先のクールジャパン機構

は、経産省主導で設立された官民ファンドで、「メディア・コンテンツ」「食・サービス」「ファッション・ライフスタイル」といった分野で、日本文化の特色を生かした商品やサービスの海外展開・インバウンド展開する事業に対して投資や支援を行う会社です。「メディア・コンテンツ」では海外で人気の高いマンガやアニメに始まり映画・音楽・ゲーム・伝統芸能など、「食・サービス」ではラーメンなどの日本食、「ファッション・ライフスタイル」では伝統工芸やファッションなど対象分野となります。

リオ五輪閉会式での東京のプレゼンテーションはご覧になりましたか?「日本の魅力/クールジャパン」を強烈にアピールした場になりました。世界的に人気のキャブテン翼、ドラえもん、キティちゃんに加え安倍首相がマリオに扮して登場し世界中の注目を集めました。2020年の東京オリンピックに向けて日

小川剛(おがわつよし)

クールジャパン機構シニアディレクター。平成3年九州大学経済学部卒。日本生命、システム開発会社インターネット、経営コンサル会社ドリームインキュベータ、3Dコンテンツ制作会社で起業し社長、伊藤忠商事のベンチャーキャピタルでのパートナーを経て、2014年1月より現職。



小川剛(おがわつよし)クールジャパン機構シニアディレクター。平成3年九州大学経済学部卒。日本生命、システム開発会社インターネット、経営コンサル会社ドリームインキュベータ、3Dコンテンツ制作会社で起業し社長、伊藤忠商事のベンチャーキャピタルでのパートナーを経て、2014年1月より現職。



バス2台で箱根・小田原へ。天候が心配された中、この日は晴天の晴れ



吉田明未さん(右)・弓場さつきさん(左)

Salon de 修猷 第10回 「大人の遠足」 ~箱根・小田原へのバスツアー~



宇佐元恭一さん

優勝は上木一徹さん(平成2年卒)、準優勝は今林定道さん(昭和44年卒)、第3位は西岡修さん(昭和57年卒)となり、男子バスグロはグロス82の中山興一さん(昭和62年卒)、女子バスグ



山のホテルでの食事の様子

親睦も深まる中、ミニコンサートが始まりました。司会の紹介とともに、ソプラノ歌手吉田明未さん(平成21年卒)が登場し、会場は一気に華やきました。1曲目は、オペラ「ジャンニススキ」より「わたしのお父さん」。吉田さんの豊かな声量と表現力に圧倒されました。そこへ、オ

カリナ奏者弓場さつきさん(平成22年卒)がサブライズで登場。吉田さんと弓場さんの出会いである修猷大運動会の思い出など楽しいトークの後に、お二人のコラボで童謡「赤とんぼ」が歌い上げられました。そして、最後の曲は、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」。弓場さんが2台のオカリナを持ち替えて紡ぎだす繊細な調べに、吉田さんの優しい歌声が重なるその演奏はまさに至福。中には、涙を浮かべて聴き入る館友もいらつしました。

その後は、第1回にもご登場いただいたシンガーソングライター

宇佐元恭一さん(昭和53年卒)のステージ。1曲目の「そこにあるRADIO」で、会場を一気に巻き込みます。宇佐元さんの軽妙なトークに館友はさらに盛り上がりました。続く2曲目はガラッと変わり、「海の中道」がしっかりと歌い上げられました。真つ青な芦ノ湖は、宇佐元さんの甘く切ない歌声とともに、能古島の浮かぶ博多湾となり、聴衆は皆、博多の街に思いをはせまし

た。そして、最後を飾るのは、代表曲「雨ニモマケズ」。ラストにふさわしい、心にしみる曲でした。まだまだステージを楽しんでいたいという後髪を引かれつつ、バスで小田原へ。車中では、ピ

ンゴ大会で盛り上がりました。小田原では、史跡巡り。リニエールしたての小田原城と、黒田家ゆかりの清閑亭(第3代館長黒田長成侯爵の別邸)へ。小田原を満喫した後、バスで帰途につきました。

サロン・ド・修猷、初のバスツアーは、芸術・文化を堪能しつつ、世代を超えて館友との親睦を深める「かけがえのない一日」となりました。ご参加・ご協力いただきました皆様、誠にありがとうございました。

谷口訓浩 権藤玲恵

(平成元年卒 گانガン会)

優勝は上木一徹さん(平成2

年卒)、準優勝は今林定道さん(昭和44年卒)、第3位は西岡修

さん(昭和57年卒)となり、男子

バスグロはグロス82の中山興一

さん(昭和62年卒)、女子バスグ

ロはグロス91の好スコアの磯部

悦子さん(昭和59年卒)となりま

した。また今回はチーム戦も開

催され、優勝者準優勝者を輩

出した上木さん、今林さん、上田

耕太郎さん(昭和59年卒)、本井

圭介さん(平成3年卒)のイン

第4組が栄冠に輝きました。

伊藤洋子さん(昭和35年卒)には連続37

回となる皆勤出場をいただきました。

今度も、大須賀会長、松本

さんを始め、初参加者10名、女性6名を含む

39名の皆様により、連日降り続いていた

雨も遠慮がちとなる熱戦が繰り広げられ

ました。

田原光晃

(平成2年卒 修猷会)

次回コンペは平成29年4月16日(日)、「富士小山ゴルフクラブ」にて開催されます。奮ってご参加のほど宜しくお願い致します。

東京修猷会 URL http://www.shuyu.gr.jp

※肩書き・所属は講演時のもの

第616回 H28.1 『ロボットが拓く未来社会～産学連携の開発現場から～』

高西 淳夫氏 (昭和50年卒) 早稲田大学理工学部 学術院教授

第617回 H28.2 『何故福岡に肝がんが多いのか?～肝がん撲滅への取組み～』

溝上 雅史氏 (昭和42年卒) 国立国際医療センター 肝炎・免疫研究センター長

第618回 H28.3 『日本の農業改革について～農協改革とTPPなど～』

山口 英彰氏 (昭和55年卒) 内閣官房 内閣審議官

第619回 H28.4 『日本の政治は君たちが変える』

山本 周氏 (昭和49年卒) (株)フジテレビジョン 報道局解説委員

第620回 H28.5 『私の家づくりと、林業再生の先導的ビジネスモデルについて』

伊佐 裕氏 (昭和44年卒) 伊佐ホームズ(株) 代表取締役社長

第621回 H28.7 『幸福度世界No1デンマークの秘密～福祉はどうあるべきか～』

銭本 隆行氏 (昭和62年卒) 日本医療大学 特別講師、(株)でかぬーて 代表

第622回 H28.9 『大人の遠足』～箱根・小田原へのバスツアー～

第10回Salon de 修猷 宇佐元 恭一氏 (昭和53年卒) シンガーソングライター

吉田 明未氏 (平成21年卒) ソプラノ歌手

第623回 H28.10 『Rio to Tokyo～数字で読み解く五輪・パラリンピック』

森田 博志氏 (昭和58年卒) 朝日新聞社 スポーツ記者

第624回 H28.11 『白血病闘病記～2度のがん治療から学んだこと』

池辺 英俊氏 (昭和60年卒) 読売新聞 医療ネットワーク事務局長

H28.12 忘年会 ※肩書き・所属は講演時のもの



なった修猷の心~

世代を超えて受け継がれる修猷の文化の一つ「応援」。その一つの象徴である大運動会の名物「応コン(応援コンテスト)」。昨年の東京修猷会総会では、その実現に挑戦しました。ステージには一文字分のスタンド。木製パネルは初めて関門海峡を越えて東京へ。この日のために練習を重ねてきた企画チームに加え、昭和37年卒から高校を卒業したばかりの平成28年卒まで幅広い世代によるゲストチームが当日参加でステージに上がり、計70名の館友たちが熱いメッセージを発信しました。

「応コン」に参加して

東京修猷会会長
大須賀 頼彦
(昭和37年卒)

4月二木会の席で「総会イベントの応コンに出ていただけませんか？」と誘われ、「応コン」がどういふものかも知らずに、軽い気持ちで応じたのが間違いでした。総会当日に役割を聞いて、「これはえらい事を引き受けた！」と慌てましたが、もう見よう見まねでやるしかありません。両隣の人の動きを横目で確認しながら、久しぶりに緊張して一呼吸命についていきました。

「終わった！ホッとした！大変だったけど、何だろうこの満足感は何？」というのが、直後の偽らざる感想でした。そうです。「応援」には二つの効能があることに気付きました。

一つはストレートに応援者、すなわち競技者や演技者を勇気づけ、元気づける効果です。跳躍競技の選手が競技開始前に手をたたいて、応援席に拍手を求める場面がよくありますが、あれなどはその典型的な例です。もう一つは、応援することによって応援者自身が精神的に愉快になったり、高揚させられるという効果です。勝ったチームのファンが、試合の後いつまでも席を離れずに交歓し合っている様などはよく見かけますが、今回の「応コン」で私が感じたのは、まさにこれと同じ満足感でした。舞台上のみならず、気持ちをついに揃って演じることで、そこに瞬間に連帯感が生まれる。これは素晴らしいことです。年代も大きく違う初対面の者同士が、意気投合して一緒に演じることができるので、そこに強い仲間意識が生まれるのです。

そして、その場が東京修猷会であれば、生まれるのは当然に「修猷館」としての仲間意識です。世代の違いはあっても、それぞれが青春の3年間をあの修猷館に学び、同じ空気を吸い、同じような思いにいたったに違いないと確信できるからです。

一昨年(平成27年)秋、就職以同期、良き先輩後輩、そして良き修猷館に学んだことで、良き来三十数年にして初めての地方勤務である福岡での単身赴任を終え、1年3か月ぶりに東京勤務に戻って、復帰した東京修猷会常任幹事会で、翌年の総会の企画が「応コン」と知った。懐かしい響きである。

三年生の秋の運動会が終わるまでは、まともな受験勉強態勢に入らず、当然のことながら学館にお世話になった組としては、「応コン」は、修猷生最後の甘酸っぱい思い出である。その「応コン」に参加する機会を得た私は、修猷時代に戻ったかのようだった。我々49年卒、四六四九(よろしく)会は、全員が還暦を迎えた昨年(平成28年)9月、富士山を巡る山梨・静岡への還暦旅行を70名の参加を得て挙行了した。その旅行で、四十年ぶりの修猷時代に帰ったかのように、はしゃいだ同級生だった。途中のバス車内で、幹事学年の方からいただいた「応コン」のDVDを上映し、懐かしい思い出に浸ったのであった。

お互いの健康を願い、再会を約した我々にとって、「応コン」は、これからの人生の応援歌として、心に刻まれたのである。

応コンと還暦

小河 俊夫
(昭和49年卒)

き教師に恵まれたことは、何もにも代え難いものがあります。間違いなくその後の人生をより良いものにしてくれました。「修猷館、ありがとう！」という思いです。

そういう思いで、最後に館友のみなさんに、そして今、修猷に学ぶ生徒諸君に、心を込めてエールを送りましょう。「フレ、フレ、修猷！」

総会の目玉企画「応コン」に参加する事になった時は、懐かしさと不安が半々の心境でした。37年振りの応コンパネル、果たして操作できるのか。しかし、昔取った杵柄とは正にこの事で、同期からは「パーフェクトやったはい！」と褒められ、誇らしいような、くすぐったい気持ちになりました。執行部として幹事学年卒猷会の頑張りを見守り続けている内に、当日舞台

上で大きなご褒美を戴いて、本当にありがたい事だと思いました。私の応援力は、在校時に培われたものに他なりません。運動会では毎回エールとして声を張り上げ、ラグビー部では初代女子マネージャーとして部員たちを励まし続けました。花園出場が決まった時に、「あなたの応援は力になります」と言われたその言葉は、今でも宝物として私の心の中で輝き続けています。

思えば、私の人生はずっと誰かを応援してきました。そろそろ子育てからも卒業し、最後に応援したいのは何を隠そう他ならぬ自分自身です。今まで散々色んな人の背中を押してきた分、これからは力一杯自分を応援したいと思っています。今回の応コン参加は、そんな自分の生き方を再確認できた貴重な体験となりました。



55年の世代に渡るゲストチーム。なかにはパネル操作が初めてという方も



現役高校生たちの汗と想いが染み込んだ木製パネルを使わせていただいた



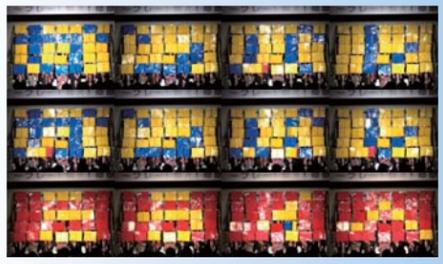
当日ゲストチームは練習なしにも関わらず息もびびったり。「上を向いて歩こう」の曲に会場も一体となって大合唱



'89レッド応コン長・副応コン長再び



表現した六光星



「ガンバレ シュウユウ ガンバレ カンユウ ミライヘ ハバタケ」

応援の人生

次は自分を

真砂 千恵
(昭和55年卒)

私の応援力は、在校時に培われたものに他なりません。運動会では毎回エールとして声を張り上げ、ラグビー部では初代女子マネージャーとして部員たちを励まし続けました。花園出場が決まった時に、「あなたの応援は力になります」と言われたその言葉は、今でも宝物として私の心の中で輝き続けています。

思えば、私の人生はずっと誰かを応援してきました。そろそろ子育てからも卒業し、最後に応援したいのは何を隠そう他ならぬ自分自身です。今まで散々色んな人の背中を押してきた分、これからは力一杯自分を応援したいと思っています。今回の応コン参加は、そんな自分の生き方を再確認できた貴重な体験となりました。

修猷生をつなぐ絆

吉岡 純輝
(平成28年卒)

私は今回の応コンに参加させてもらい、応コンを通して自分の祖父母と同世代の先輩方と交流ができてとてもいい経験になった。

私は入学当初に応援歌指導をうけて初日は「何をしているのだろう。」と思っていた。しかし応援歌指導をうけていくうちに修猷における「応援」の伝統や



映像ディレクター小谷松菊夫君(平成2年卒)制作のドキュメンタリー

私は今回の応コンに参加させてもらい、応コンを通して自分の祖父母と同世代の先輩方と交流ができてとてもいい経験になった。

私は入学当初に応援歌指導をうけて初日は「何をしているのだろう。」と思っていた。しかし応援歌指導をうけていくうちに修猷における「応援」の伝統や

歴史をひしひしと感じていき最終日にはとてもすがすがしい気分になっていた。

修猷の「応援」は部活動の応援でもある。全国大会に参加する館友をおくりだす時や試合のハーフタイムやビハインド時にみんなが応援してくれる。私もサッカー部だった。負けてハーフタイムになった時に応援にかけつけてくれた館友が私たちにエールをおくってくれた。それが私たちのパワーになったの。言うまでもない。

修猷生にとって「応援」とはベタであるが修猷生をつなぐ「絆」であると思う。私は今回自

「絆」が生まれる。「応援」は修猷生を永遠につなぐと私は思う。

特集 フレ!奮え! 修猷!!

東京に輝く六光星 ~世代を超え一つに

伝統の継承

祇園 義朗
(昭和63年卒)

私は、高校時代は応援部に所属しており、3年時には副団長を務めておりました。

応援部の責務は、入学後の応援指導を通じて、諸先輩方より受け継がれた修猷館の伝統や魂を守り、それを新たな館友たちへ伝えること、また、各部の応援や壮行会などの行事を通じて、館友同士がお互いの目標に向かって支え合えるよう鼓舞していく、ということにありました。

昭和最後の卒業生である我々の時代は、部員数も多く、学校行事への参画や各部の応援などの活動においてもまさに全盛期でした。今は、当時のようなバンカラは時代遅れなのか、部員も少ないと聞き寂しい気がします。が、今回の応コン企画に参加さ

せて頂き、我々の責務であった館友間で支え合い協力するという伝統が、時代やスタイルこそ変わっても脈々と継承されているということを実感することができたと感じます。幹事学年の皆様には感謝です。押忍。

子育て中の方もぜひ!

三浦 愛佳
(平成3年卒)

「ママ、合コンがんばってね」と、小学生の娘に送り出されて向かった先は、合コンではありません! 応コン練習です。

3ヵ月間、3回の練習と懇親会に参加する前に、家族にはくわしく説明しました。修猷館とは、その同窓会とは、そして運動会の応コンとは。娘はテレビで聞き知った「合コン」に変換して記憶してしまっただけです。が(笑)、快く送り出してくれたのです。いざ参加してみれば、応コン



5×7マスで苦心して

先輩方に感謝! そして後輩達へ

河井 志帆
(平成7年卒)

東京修猷会の常任幹事を親友から引き受けて約20年。総会には可能な限り出席してきた。最初は親に近い位のお歳の先輩方だった総会幹事学年が、あつとつ間に兄や姉のような近い先輩になり、気がつけば我々の順番まであと5年。総会に出席する同期も最初は1人2人だったのが、ここ数年は毎年5人くらい集うように。

手を挙げた。理由は2つ。1つ目は私自身が副応コン長を務めた最後の運動会ではできなかった、3度目のパネル操作のチャンスが来たから。そして2つ目は、この20年近く東京修猷会のイベントで「いつも来てくれてありがとう。」「若いのに、えらいね。」と常々声をかけて応援して下さった先輩方に「応コン」で恩返しをしたかったから。



「シュウウウ キズナエイエン ココロハヒトツ トワニ
カガヤケ ロッコウセイ★ キボウノヒカリ」



リーダーの気合の一声に気持ち昂る企画チーム。3ヵ月の練習の成果を披露

大運動会から「スタンド」消滅! 立ち上がった館友たち!!

東京修猷会副会長 伊藤 哲朗 (昭和42年卒)

スタンドのない運動会なんて考えられない

当時、私は執行部の財務担当。重藤館長から「修猷館の運動会費用は、生徒会費で支出はされ

ているが、県下の高校の中でも突出して高いのを改める必要がある。一番の原因はスタンド建設費。加えて、建設会社

のほうにも費用面でも相当無理をお願いしているの、今後は、スタンドの建設は見合わせない、また、全体の予算も削りな

さい。」との話があったのです。生徒総会にかけて色々議論しましたが、スタンドはぜひ続けたいので建設会社に無理をお願いして何とか賄おうということに

なりました。しかし、重藤館長からは、父兄から頂く生徒会費に頼るのは認めない、カンパも同じ理由でダメ、まず運動会費の減額が先だと言われました。

そこで、みんなで話し合い、まず、お金は自分たちで稼ぐ。そしてスタンドは、資機材を借り、作り方の指導を受けて、なんと自分たちで作れないかという話になりました。建設会社の方も、素人だけでは無理だが、職人と一緒にやれば、できない

ことはないと言ってくれました。また、各ブロックの費用も半額としました。その結果、運動会費が半分以下の費用でできることになりました。重藤館長もようやく予算案を認めてくれました。

皆様がありがとうございました

企画担当 渡邊 賢 (平成2年卒 卒猷会)

総会テーマに「応援」を掲げ、会場の方々そして修猷館にエールを送ろうと考えた私たちは、修猷大運動会の名物「応コン」に着目し、その歴史を映像で紹介すると共に、東京で「応コン」を実現すべく、先輩方や後輩達にも協力をいただきながら約1年かけて準備を進めました。

取材を進める中で、親子で応コン長を務めた中本純徳先輩(昭和61年卒)やスタンド存続の(昭)母校の応コンを忠実に再現しました!

当日に向けて昭和63年卒の先輩から平成7年卒の後輩まで6



当時の思い出を熱く語る伊藤副会長

「ママ、合コンがんばってね」と、小学生の娘に送り出されて向かった先は、合コンではありません! 応コン練習です。

3ヵ月間、3回の練習と懇親会に参加する前に、家族にはくわしく説明しました。修猷館とは、その同窓会とは、そして運動会の応コンとは。娘はテレビで聞き知った「合コン」に変換して記憶してしまっただけです。が(笑)、快く送り出してくれたのです。いざ参加してみれば、応コン

なりました。しかし、重藤館長からは、父兄から頂く生徒会費に頼るのは認めない、カンパも同じ理由でダメ、まず運動会費の減額が先だと言われました。

そこで、みんなで話し合い、まず、お金は自分たちで稼ぐ。そしてスタンドは、資機材を借り、作り方の指導を受けて、なんと自分たちで作れないかという話になりました。建設会社の方も、素人だけでは無理だが、職人と一緒にやれば、できないことはないと言ってくれました。

また、各ブロックの費用も半額としました。その結果、運動会費が半分以下の費用でできることになりました。重藤館長もようやく予算案を認めてくれました。



大運動会から「スタンド」消滅! 立ち上がった館友たち!!

修猷★トピックス

修猷資料館 40年ぶりのリニューアル!

平成28年3月12日、修猷資料館のリニューアル記念式典が現地で執り行われました。

式典では、財団法人修猷協会橋田紘一理事長(昭和36年卒)が「資料館にはたくさんのお宝が眠っている。現役の学生が展示物を自主的に調べ、学びの場としてほしい」とご挨拶されました。

そもそも、修猷館に資料館があることを皆さんはご存知ですか?

資料館は、昭和51年に江浦重成第3代同窓会長寄贈の3000万円によって建設されました。設計に当たっては、松田順吉氏



展示物はもちろん建物も魅力的な修猷資料館



展示室：既存建物部分



記念式典のテープカット



展示室：増築回廊部分



資料館案内石碑

建築後約40年が経過し建物の老朽化と手狭になったことから、同窓会が主体となって保存や改修について検討。財団法人修猷協会が資金を提供し、一部増築により床面積を約2倍にして展示スペースを大幅に増やし、修猷館創立230周年事業の一環としてリニューアルオープン運びとなったのです。

リニューアルの設計でも安恒陽一氏(昭和45年卒、陽設計事務所代表取締役)を筆頭に構造・設備設計等で卒業生が携わりました。

南門(旧正門)を入ってすぐ左手に位置する資料館。今回のリニューアルを期に、新たに設置された案内石碑に導かれて進むと庭園風に整備された前庭が広がります。その奥の入口では、彫刻界の重鎮であった安永良徳氏(大正8年卒)のブロンズ「母子像」(昭和55年4月完成)がご出迎えてくれます。入口左手すぐの展示室は、既存建物部分。床が電車の敷石だったため湿気がひ

どかつたものが、改修され防湿・断熱が整えられました。こちらには、金子堅太郎氏・中野正剛氏・廣田弘毅氏・古賀井卿氏らの書の掛軸や絵画等卒業生の作品が多く展示されています。順路に従って進めば、今回既存の建物の半分を取り囲む様に増築された回廊部分へ。修猷館の歴史を物語る貴重な資料の数々が展示されています。また、既存の建物と増築の間には中庭のよう

な空間も設けられました。外壁には、既存建物と調和するようにレンガが用いられ建設当時の想いが受け継がれています。緑に囲まれて、修猷館の歴史と共に静かに佇む新資料館。機会があれば一度足を運ばれてみてはいかがでしょうか。

◆見学を希望される方は、学校までお問合せください。ボランティアで先生が対応していただけます。また、月に1回程度、一般公開も実施されており、詳しくは、学校のホームページをご覧ください。

収蔵品の紹介

【五輪旗】

昭和39年、東京オリンピック開催の折、その組織委員会会長という重責を担って、成功を収められたのが、安川第五郎氏(明治39年卒)であった。安川氏は九州電力会長、日本原子力発電社長などを歴任、財界の重鎮であった。同旗はオリンピック開催中にメインスタジアムである国立競技場に掲揚されたものである。安川氏より後輩のためにと修猷館に寄贈された。



【ワリヤークの鐘】

明治37年2月、日露戦争開戦時、仁川港外で爆沈したロシア軍艦ワリヤーク号で使用されていた鐘。明治41年、修猷館が寄宿舎開設六周年記念に入手、号鐘として用いられた。昭和2年、寄宿舎廃止後は本館にて、始業、終業を告げる時鐘として昭和27年頃まで使用された。



【制帽】

明治18年以来、制帽は変化してきたが、それぞれのデザインの中に時代の変化を偲ばせて興味深い。

一号(明治18〜20年)
鹿が長く、徽章は黒田家の紋章藤巴にちなんだもの。
二号(明治21〜27年)
上部の細くなったフランス



型、徽章は修の字の篆書。
三号(明治27〜31年)
幅広白線のドイツ帽、徽章に初めて六光星を使用。
四号(明治32年以降)
英国型帽子。
五号(大正〜昭和18年頃)
六号(昭和16年新入生から)
陸軍の戦闘帽子を模したものの。色は国防色と称した。
七号(昭和23年頃)
現在は使用されていない。

資料館を支える有志

修猷資料館には様々な品物が収蔵されています。現在、資料館に展示されているものは、ほんの一部です。それらの収蔵品の整理を一手に引き受けて下さっているのが、昭和32年卒の大島泰治さんです。

委員会が立ち上げられ、予算・建築・照明等の検討も含め、13人の委員で進められました。大島さんは、収蔵品の展示計画と準備(並べ方・展示の説明)を担当されました。

15年以上前、4人で始まった収蔵品の整理ですが、5年前に大島さんだけになってしまいました。後継者が見つかる迄は1人で整理を続けられていたところに修猷資料館リニューアルの話が決まりました。

新たな展示計画の提案や活用には、全ての収蔵品情報を把握する必要があります。そのため大島さんは、自分以外の人にも収蔵品について知ってもらえるよう、目録作りに力を注いでいます。



大島泰治さん(昭和32年卒)

についても完成を目指して目下奮闘されています。残念ながら現在も後継者は不在です。収蔵品については、まだ展示されていないものの中にも、大変興味深い品々がたくさんあるそうです。



福岡・博多の観光サイト「ぐるパノ!福岡」で、現在の校舎(内部も含む)、敷地の様子が360度パノラマ画像で紹介されています。
<http://gurupano.jp/archives/4345>



現校舎



二代西新校舎



初代西新校舎



大名時代の校舎

修猷館校舎の変遷

修猷館の今

深堀 政一 (平成29年卒 卒猷会)



数学を教える筆者

母校に赴任して、早6年。第3学年主任をしております。私の恩師であります小島一義先生(数学)、浅田正人先生(英語)も現役教員として勤められている中、野球界の有名人、波多江憲治先生(数学・平成29年卒)とともに日々修猷館の為に尽力しております。私なりに、今の修猷館について書かせていただきます。

今の修猷館は、1・2・3学期の区分から、前・後期の2期制になり10年が経とうとしています。このことが修猷館に大きな変化をもたらしたと思います。修猷館の2大行事である大運動会は前期の最後に、大文化祭は後期の最後に行われます。

大文化祭は従来6月に行われていました。6月ほどの学年も少しずつクラスがまとまっていく時期です。その団結に大文化祭が一役をかっていたと思います。後期の最後となりますと、クラスの雰囲気もそれぞれで、またクラス間の対抗意識も高まっています。6月の時よりも準備期間も長くなり、私たち教師がみても驚くぐらい、かなり見応えのある作品ができあがります。ここ数年は劇よりも、ものづくりによく取り組んでいま

より、応援団員と有志の生徒で旗を掲げています。昨年度はかなり雨が降りましたが、何とか完歩できました。当然、応援団は雨のためかなりの重量になり、糸島半島の海風により大変不安定な状態でしたが、最後まで持ち通すことができました。教師側から代わりの旗も準備しましたが、「僕たちは、最後までこの旗を守ります」という言葉に、応援団の魂はしっかりと受け継がれているなど感銘を受けました。このようなドラマがあることも教師をしていて何よりの楽しみであります。

第2学年では、東京研修が行われています。私の学年も昨年実施し、伊藤哲朗先輩に日本の現状やこれからの課題についてご講演をいただきました。このお話は、一人の高校生としてではなく、これからの世界を担っていく若者へのメッセージだったと思います。生徒たちは話を聴く中で今の自分たちの世界がいかに狭い世界だったかを痛感し、いつか先輩方のような世界で活躍できる人材になりたいと目を輝かせて帰りました。この東京研修で東京修猷会のたくさん先輩方のご協力により、生徒たちは様々な経験を積むことができました。これらの修猷館の縦のつながりで学校は成り立っていると思っています。今後とも後輩たちの応援・激励をよろしく願います。

その他の行事では、十里行軍は十里踏破遠足という名称になり、2月から12月に変更されました。その大きな違いは、日没時間です。12月は5時を過ぎると、かなり暗くなります。ゴール地点に小学校をお借りしている関係で若干距離は短くなってしまうのが残念です。応援団旗は今でも先頭を歩いています。しかし、近年応援団員の減少に



修猷、九大でエース投手、社会人野球も経験した波多江先生

国際地理五輪銀メダル

松藤 圭亮 (3年)

私は、昨年8月に中国・北京で開催された「第13回国際地理五輪」に日本代表選手として参加し、銀メダルを獲得した。

5歳の頃から、地図帳は親友だった。暇さえあれば、日本全国・世界中の鉄道や道路、山河を、指でくまなく辿る。創作地図も何百枚と作った。地理五輪の問題を初めて見たときの印象は「これ、面白すぎる」。好奇心のままに勉強を進め、幸運にも日本代表の1人選ばれた。

地理五輪の最大の魅力は、街に飛び出して答えを見つけるフィールドワークテストだ。北京大会でも、①市内の巨大交差点で交通量調査、②住宅街を歩き回って住環境上の課題を発見し、解決策を地図上に表現、のように、多彩な技能が試された。

勝負のカギはチーム内の役割分担と情報共有。4人揃って「高3男子地理マニア」だったからだろうか、今年の日本チームは連係プレーが抜群だった。



個人銀メダルの他にチームとしてポスター賞も受賞

地理五輪のもう一つの醍醐味は他国選手との交流だ。食事やバス移動の度に、海外選手とお喋りに興じた。「握り寿司と回転寿司は何が違うのか」「東京はなぜあんなに人口が多いのか」などと、お互いの国に関して尋ねあっていた。

英語科の先生は私の答えを添削してくださった。同級生も地理五輪に興味を示し、応援してくれた。さらに、国内大会の表彰式には、東京修猷会の島津正数先輩が駆けつけてくださった。修猷館の全力サポート体制があったからこそ、地理五輪を存分に楽しむことができた。卒業まで残り僅か、北京で得たものを修猷の後輩たちに還元したい。

インターハイ柔道競技大会52キログラム第5位

藤原 七海 (3年)



3年間の努力の集大成となった全国大会

昨年の夏、私は島根県で開催された全国高等学校総合体育大会柔道競技(インターハイ)52kg級に出場しました。結果は5位入賞。うれしい気持ちがある一方で、自分の柔道の課題も見つかり、大学でも柔道を続けて「次こそは全国優勝したい」と新たな目標を作ることもできた試合となりました。

3年かけてやっとつかんだ全国大会への切符。初めての大会で、自分がどれだけやれるのかわからない不安になることもありました。しかし、大会当日は、島根まで応援に来てくれた仲間たち、福岡でいい知らせを待っている人たちのためにも絶対に勝りたい。という気持ちが前面に出て、いつも以上の力を発揮することができました。

また、修猷館という環境にも感謝をしたいと思います。修猷館生の辞書には「手を抜く中途半端」といった言葉がないため、平日の限られた練習時間の中で先輩後輩関係なく全身全霊でつか

全国高等学校総合文化祭自然科学部門奨励賞

長原 颯大 (3年)



左から筆者、島内大輝(3年)、松尾知輝(2年)、都々木一平(2年)

私たちが修猷館高校化学部は昨年7月30日から広島大学で開催された「第40回全国高等学校総合文化祭2016ひろしま総文化学部部門」において、全国から集まった化学部の中で最優秀賞(1校)、優秀賞(2校)、に次ぐ奨励賞を受賞した。発表内容は「金属イオンの探究」である。この発表の中心となっていたのは、本校オリジナルの「万能指示薬」である。この万能指示薬は化学部が長年研究してきたものであり、目で見ても簡単に溶液のpHを知ることが出来る試薬である。そのため、万能指示薬はアイデア次第で無限の可能性を秘めているので、より様々な角度から研究を行っていきたい。

今回の奨励賞の受賞という結

「真の溶液コロイド溶液」のように変化する現象をpHと関連付けて観察した。また、私たちはこの実験過程で「偶然」、水酸化鉛が万能指示薬を吸着することに気が付いた。この現象は当初、何に活用できるか全く見当がつかなかった。だが、教科書をよく読み返してみると、「金属イオンの定性分析」では、従来の方法よりも簡易に分析ができるようになり、「鉛イオンの除去」では、指示薬を加えることで鉛の回収率をアップさせることができた。この反応は、まだまだ未解明の部分も多いため、より様々な角度から研究を行っていきたい。

今回の奨励賞の受賞という結

2016年度寄付金

2015年11月1日から2016年10月31日までに多数の皆様からご寄付いただきました。ありがとうございました。お礼の意味を込めてお名前を掲載させていただきます。(敬称略・卒年別)

修猷館同窓会、近畿修猷会、中京修猷会、(館長)江口善雄、(昭9)富田明德、(昭12)宮川一二、(昭15)明石隆次、(昭19)毛利昂志、(昭19)田尻重彦、(昭20(4))野上三男、(昭20(5))伊藤晃、(昭23)吉田良一、(昭24)安藏復也、(昭26)藤吉敏生、(昭26)常岡宏、(昭26)太田進、(昭26)中村道生、(昭26)清水英範、(昭26)小西正利、(昭27)金田久仁彦、(昭28)児玉黎子、(昭28)岡本泰仁、(昭28)吉見健三、(昭29)高木道子、(昭30)西松和友、(昭30)田中栄次郎、(昭31)伊達直哉、(昭31)影山滋、(昭31)高崎洋一、(昭31)箱島信一、(昭31)村田和夫、(昭31)中村保夫、(昭32)平野熙幸、(昭32)井上智晴、(昭32)鳥居健太、(昭32)國分英臣、(昭32)林克己、(昭32)和田聿生、(昭33)大西正俊、(昭33)武石忠彦、(昭33)米倉實、(昭33)寺澤美和子、(昭33)佐竹儀治、(昭34)服部富美子、(昭34)行武賢一、(昭34)加藤泰、(昭34)讚井邦夫、(昭35)羽立教江、(昭35)伊藤洋子、(昭35)小野勝利、(昭35)江川清、(昭35)可見晋、(昭36)濱地康彦、(昭36)横倉稔明、(昭36)中島成之、(昭36)土井高夫、(昭37)大須賀頼彦、(昭38)渡辺紀大、(昭38)上田茂、(昭38)井上誠、(昭39)久保田康史、(昭39)貝島資邦、(昭39)清田瞭、(昭39)久保田康史、(昭40)井上浩、(昭40)岩下朗子、(昭40)棚町精子、(昭40)山形紀明、(昭40)田村幸雄、(昭40)由良範泰、(昭41)中川原章、(昭41)淀川和也、(昭41)安田修之助、(昭41)桑原昭二、(昭41)恒松芳一、(昭41)有山賢良、(昭41)高木健二、(昭43)宮地徳文、(昭44)甲畑真知子、(昭44)横田勝介、(昭44)伊佐裕、(昭44)坂井真知子、(昭45)本田由紀子、(昭46)栗山英俊、(昭46)鹿兒島正信、(昭46)森山幹夫、(昭46)土肥研一、(昭48)北戸春雄、(昭49)古森光一郎、(昭49)橋村秀喜、(昭49)井手富士雄、(昭49)本庄英智、(昭50)真崎理香、(昭50)野中哲昌、(昭50)佐藤信介、(昭51)下川公明、(昭51)油田哲、(昭53)新納康彦、(昭53)上蘭勉、(昭54)中原誠也、(昭54)井田博之、(昭54)松尾隆広、(昭54)中原滋、(昭57)西岡修、(昭58)井手慶祐、(昭59)服部豊、(昭60)香月明子、(昭61)一本宏行、(昭62)田尻公一、(昭43)学年寄付

※故 橋本胖さん(昭和11年卒)の奥様より3万円のご寄付をいただきました。

中川勝弘先輩を偲んで

福岡県知事 小川洋(昭和43年卒)



中川勝弘さんが亡くなられました。何度かお見舞いしようとしたのですが、すぐ元気になるからと仰って、お目にかかれぬまま、訃報となりました。

残念で仕方ありません。

中川さんは、私が通商産業省に入省以来、高校の先輩ということもあって、今日まで変わらぬ御指導、御支援を頂きました。特に、私の福岡県知事立候補に

当たっては、幾度も来福され、親身になって応援頂きました。時に厳しく御指導も頂き、お陰様で二期目を元気にやらせてもらっています。

中川先輩といえば、あの特徴ある太い眉毛でニコッと笑って「おい、小川。元気か。」と言われたお姿が今でも忘れられませんが、役所での先輩は、温厚で冷静沈着。事に当たっては、鋭い洞察力、果敢な決断力、そして実行力を遺憾なく発揮されました。その際、国内外の豊富な人脈を駆使されておられました。

また、お忙しい中、生活を楽しむことも心掛けておられ、ゴルフは「愛すべきプレーヤー」でした。

現在、この国は、解決しなければならぬ課題が山積しています。こういう時こそ、先輩の見立て、アイデア、そして行動が必要で、それが叶わぬことを基に、知恵を出し合い、この日本の国の経済社会、地域社会の発展を実現していかなければなりません。先輩に「おい、小川。みんな頑張っているやないか。」と言われるようにしたいと思えます。

長い間、中川さん、お世話になりました、ありがとうございます。

昭和43年卒 学年便り

福岡県知事 小川洋(昭和43年卒)

来年で卒業から半世紀、我々は昭和24年と25年早生まれ、団塊世代のしんがり世代。昭和43年卒業に因んで「四三会(よさんかい)」と名付けて福岡、近畿そして東京と各地で思い思いの同窓会活動を行っています。

平成6年に総会の幹事学年。東京四三会全員集合で準備し、ライバル福高出身の小松政夫さんを会場に迎えて、「♪ぼんちかわいや」の祭囃子に皆で練り歩くドンタク隊。この愉快な総会が契機となって毎年総会の後に集まりを持ち始めました。

平成21年還暦の年、花のお江

戸の浅草の町に70名が集合。隅田川めぐりの水上バス、浅草のきらめく夜景を眼下に還暦大パーティー。それ以降「10月最終土曜日の例会で会いましょう」を合言葉に毎回趣向を凝らしたミニツアーと懇親会を都心と近郊で交互に開催してきています。

横浜みどりみらい21と中華街、皇居・江戸城跡のぶらぶら歩き、武蔵国の国府が置かれた府中での東京競馬場の観戦、高尾山の山歩きとネオンまたたく新宿の街、平成26年には上野の森で東京藝大のキャンパスツアーと学食貸切りの懇親会で学生に戻ってワイワイガヤガヤ。翌年は小江戸・川越を楽しむ会。そして昨年10月は、西鉄電車を思い出しなが

ら、都電荒川線のぶらり旅。誰もが気軽に参加でき、時空を超えて修猷館時代に戻り、これまで、そして今の思いを語る場として、これからも東京四三会の活動を続けていきます。そして例会の締めは元応援団長のいつも元気な「プレーフレー！修猷！」



平成26年東京藝大キャンパスでの懇親会



高木 新副幹事長(昭和60年卒)

執行部紹介



柴田 新副幹事長(昭和63年卒)

この度、副幹事長を拝命しました。副幹事長の高木信明です。2011年に幹事学年を務めた際、総会や二木会を中心に多くの活動に関わりました。準備期間を含め、大変充実した日々を送ることができたと実感しています。最大の収穫は、同期はもちろん先輩や後輩の方々との交流が増えたことです。現在もその交流は続いています。もっと早くから多くの活動やイベントに参加していれば良かったと思っています。若い方の参加がより増えるよう、執行部としての活動に尽力して参りますので、よろしくお願いたします。

この度、副幹事長を拝命しました。副幹事長の柴田(中谷)真弓と申します。

長年執行部でご活躍いただきました古川晴美先輩(昭和57年卒)の後を引き継ぎ、主に会計を担当させていただくことになりました。お世話になった母校に少しでも恩返しができますように微力ながら精一杯努めさせていただきます。

同窓の素晴らしい先輩後輩との交流も増え、勉強になることばかりです。これからも多くの館友の皆様とお会いできますことを楽しみにいたしております。どうぞよろしくお願いたします。

東京修猷会 年会費納入のお願い

東京修猷会の会報の印刷・発送をはじめ年間行事等の活動は、全て皆様の年会費3,000円で運営されております。どうぞ年会費の納入にご協力ください。

●年会費は年間を通じて受け付けております。

郵便振替、銀行振込、コンビニ振込、クレジットカード決済が選べます。

二木会や総会の受付でも可能です。

郵便振替

口座名義：東京修猷会事務局
口座番号：00170-6-172892

銀行振込

銀行名：ゆうちょ銀行 口座名義：東京修猷会事務局
店名：019(ゼロイチキュー) 店番：019
預金種目：当座 口座番号：0172892

コンビニ振込

同封の振込用紙をご利用下さい

クレジットカード決済

東京修猷会のホームページから申込みください。
《東京修猷会 <http://shuyu.gr.jp>》

お振込のうち年会費を超える額はご寄付とさせていただきます。郵便振替・銀行振込は会員の特定が困難な場合があります。必ず卒年をいれるようお願いいたします。

編集後記

今号では、昨年の総会と同じく修猷の「応援」をテーマとして、編集を進めてまいりました。「応援」を通して縦と横の繋がりを感じ、修猷館の一員であることに喜びを感じる。それが修猷生にとっての「応援」の文化と言えるのではないのでしょうか。

ご寄稿いただいた先輩・後輩をはじめ、執行部の皆様、東京と福岡の多くの同期に応援していただき、会報を皆様にお届けすることができたことを、大変嬉しく思います。

末筆ではございますが、多忙な中ご寄稿ご協力くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

平成27年卒 修猷会
会報編集担当一同